

小菊は県内一の生産量！花卉は軽作業のため高齢者や女性でも取り組みます



主人公の野原拓人さんは、実家の農地を守ろうと就農を決め、Uターンすることになりました。ワンストップ就農窓口で、品目選定に向け相談をしています。今回は、花卉の品目紹介です。

小菊栽培は取り組みやすく
需要期の盆や彼岸に
収穫ピークを合わせ定植
その1週間後に摘心作業、
2カ月後から整枝を始めます

へエー！
休耕田があるので
転作にも興味があります

相談員からの提案で
転作田での小菊栽培の
お話が出てきました

暗渠・明渠を施し
転作田での栽培は
どうでしょうか？

JAいわて平泉は
県内第1位の産地で
県内生産量の5割を占めます
指導や支援も手厚いため
お勧めしてみました

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	目標収量
①8月咲き	Q4月下旬	●整枝		★7月下旬～					33,000本 /10a
②9月咲き		Q5月下旬	●整枝		★8月下旬～		◆10月下旬～		33,000本 /10a

※定植一週間後に摘心作業を行う

部会事業(一例)

【指導会】
定期的に
栽培管理を確認

【目ざろえ会】
出荷規格や荷受け
体制などを確認

また花き部会でも
定期的な指導会を実施し
その時期にやるべき
栽培技術を学べるよう
サポートしています

栽培初心者セミナーにて
栽培を始めて間もない
生産者を対象に
栽培管理指導会や相互研修を
行いますので大丈夫ですよ

軽作業で
ロスも少なく
良いですね！
でも花卉栽培は
小学校以来
だなぁ

花・茎・葉すべてが商品のため
収穫までの薬剤散布による
病害虫防除が重要です

栽培初心者セミナー：一関地方農林業振興協議会(県、市町、JAなどが構成)が主催

当管内は野菜はもちろん
花卉も強いので
良かったら検討して
みてくださいね！

令和7年からは輸送コスト軽減と
単価の底上げに向け
ストックポイントを利用した
新しい輸送体制を開始するなど
各種取り組みに意欲的です

また、花き部会では
生産コスト削減に取り組んでおり
令和6年には
出荷規格の見直しを行い
需要期に多く出荷でき収益が増加
選花作業にかかる時間や出荷ロスの
削減につながっただけでなく
消費地では加工時に発生する
余分な茎葉などの廃棄物処分コストが
減少するなど成果を上げています

JAいわて平泉では他にも
岩手県が全国1位の産地のリンドウ
スターチスやストックを栽培

リンドウも転作田に適した宿根草で
一度定植をすると4～5年収穫ができますよ

県内1位
ストック